

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	人間関係とコミュニケーション(2年後期)			担当教員名	川村 亜希				
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年 介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	介護サービスの特徴を踏まえ、チーム運営の基本や人材育成の管理法の基礎を学ぶ。										
到達目標	介護の質を高めるために必要な、チームマネジメントの基礎的な知識を理解し、チームで働くための能力を養う。										
使用教材	人間の理解 中央法規						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	オリエンテーション				9	人材の育成と管理 キャリアパスとキャリアデザイン					
2	介護サービスの特徴				10	人材の育成と管理 OJTとOFF-JT					
3	チームマネジメントとは① 介護現場におけるマネジメントとチームマネジメント				11	自己研鑽とスーパービジョン					
4	チームマネジメントとは② 介護福祉士に期待される役割				12	チーム運営の基本 組織・法人の理解					
5	チームマネジメント ケアを展開するためのチームでの情報共有				13	チーム運営の基本 組織の管理					
6	リーダーシップとフォロワーシップ①				14	チーム運営の基本 災害管理・地域連携					
7	リーダーシップとフォロワーシップ②				15	試験対策 まとめ					
8	人材の育成と管理 キャリアイメージ										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	社会の理解 (2年前期)			担当教員名	井沢 潤				
実務経験等	特別養護老人ホームでの生活相談員として勤務。 実務経験から想定される、介護福祉士に必要とされる社会保障に関する知識を中心に、我が国の社会、介護保険制度、障害者総合支援法、その他関連諸制度を学ぶ。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	介護保険制度、障害者総合支援制度を中心に学ぶ。										
到達目標	介護保険制度や障害者自立支援制度など、介護実践に関連する制度の理解を図る。										
使用教材	社会と制度の理解 中央法規						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	社会保障のしくみ 日本の社会保障制度の発達 (福祉三法)					9	年金保険				
2	日本の社会保障制度の発達 (福祉六法)					10	医療保険				
3	日本の社会保障の発達 (見直し期)					11	医療保険				
4	日本の社会保障の発達 (介護保険と福祉の考え方、地方分権、社会保障改革)					12	医療保険				
5	日本の社会保障制度のしくみ 社会保障を支えるもの、社会保障のしくみ					13	労働者関係の社会保険				
6	現在の社会保障の体系					14	各種社会扶助の概要				
7	年金保険					15	試験対策 まとめ				
8	年金保険										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅰ（2年後期）			担当教員名	樋口 洋一、野本 義則				
実務経験等	病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務。保健医療学にて博士号を取得。 作業療法士として長年病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Ⅰについて講義を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	I C F、リハビリテーションと介護福祉士のかかわり方										
到達目標	介護過程の考え方でもあるI C Fの概念を学びつつ、リハビリテーションの基本である「全人的復権」という考え方を理解し、また障害別のリハビリテーションの知識・専門用語を身につけることで、介護福祉士の立場でどのようにリハビリテーション関連職種と連携をとっていくかを考えられることを目指す。										
使用教材	中央法規出版 介護の基本Ⅰ						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	自立支援とは				9	リハビリテーション専門職（P T、O T、S T）					
2	自立支援とエンパワメント・ストレングス				10	障害の理解と評価 A D L Q O L リハにおける自立					
3	I C Fとは 歴史・モデル				11	自立支援と介護予防					
4	I C Fの良循環・悪循環				12	介護予防のサービスの種類と特徴					
5	介護実践にI C Fの視点を応用する				13	高齢者の身体特性と介護予防					
6	リハビリテーションの理念・歴史				14	介護予防の実際 介護予防における介護福祉士の役割					
7	リハビリテーションの目的と役割・体系				15	まとめ					
8	リハビリテーションの領域										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護の基本Ⅱ（2年前期）			担当教員名	川村 亜希				
実務経験等	介護福祉士として、訪問介護、特別養護老人ホームに通算6年 介護福祉として介護現場の経験から、事例に基づき介護の実際や現場の課題について理解を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	リスクマネジメント 健康管理										
到達目標	利用者の安全かつ安心できる生活を確保し、信頼のおける介護の実現の為にリスクマネジメントや感染症を学ぶ。更に介護従事者の健康管理等を学ぶことにより、心身共に健全な介護を提供する事を理解する。										
使用教材	中央法規出版 「介護の基本Ⅱ」						評価方法	小テスト、レポート、筆記試験			
授業内容											
1	介護における安全の確保					9	事故報告書作成 ポイント、記録の重要性				
2	リスクマネジメントとは何か					10	事故報告書作成 ポイント、記録の重要性				
3	危険発見活動、KYT活動					11	事故報告書作成 原因分析の視点				
4	リスクマネジメントの考え方					12	事故報告書作成 原因分析の視点				
5	ヒヤリハット活動					13	事故報告書作成 具体的な再発防止策				
6	生活の中のリスクと対策					14	事故報告書作成 具体的な再発防止策				
7	転倒事故への対策					15	介護従事者の安全 感染症対策				
8	認知症利用者の事故										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	コミュニケーション技術（2年後期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	コミュニケーションの理解と実際の手法を学ぶ。										
到達目標	介護従事者に求められる「コミュニケーション技術」を理解し、利用者との関係調整能力を習得する。また、コミュニケーション障害のある利用者を理解する視点を学び個別性を視野に入れた適切なコミュニケーションの実践が可能となることをねらいとする。更に記録の重要性を理解し、方法等を学ぶことにより実践可能とする。										
使用教材	コミュニケーション技術						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	コミュニケーション障害の理解				9	記録					
2	コミュニケーション障害のある利用者への対応				10	記録					
3	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：高次脳機能障害				11	記録					
4	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：失語症・構音障害				12	報告・連絡・相談					
5	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：認知症				13	報告・連絡・相談					
6	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：視力・聴力				14	会議					
7	利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際：知的障害・精神障害				15	会議					
8	介護におけるチームのコミュニケーション：チームのコミュニケーション										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ（2年前期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。</p> <p>上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要	介護技術を習得し、生活支援にどのように活用するか学ぶ										
到達目標	利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援することが介護実践であり、その人の身体状況、生活環境を理解した上であらゆる介護場面において、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援方法を習得する。										
使用教材	中央法規出版 生活支援技術Ⅱ						評価方法	筆記試験・実技試験			
授業内容											
1	オリエンテーション、1年次実技の振り返り					9	事例をもとにした演習（更衣・移動動作）				
2	1年次実技の振り返り					10	事例をもとにした演習（更衣・移動動作）				
3	身支度における介護技術					11	自立に向けた睡眠の介護（友人シーツ交換：テスト）				
4	整容の介助の実際					12	自立に向けた睡眠の介護（友人シーツ交換：テスト）				
5	休息と睡眠の介助（臥床している人がいる場合）					13	安楽な体位（仰臥位、側臥位、ファーラー位）				
6	休息と睡眠の介助（臥床している人がいる場合）					14	前期期末実技試験課題発表				
7	排泄介助（尿器・差し込み便器）					15	実技試験対策				
8	排泄介助（尿器・差し込み便器）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅱ（2年後期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。</p> <p>上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要	介護技術を習得し、生活支援にどのように活用するか学ぶ										
到達目標	利用者個人の尊厳を保持しながら、利用者が主体的に生活できるよう支援することが介護実践であり、その人の身体状況、生活環境を理解した上であらゆる介護場面において、個別性のある自立・自律や社会参加に向けた生活支援方法を習得する。										
使用教材	中央法規出版 生活支援技術Ⅱ						評価方法	筆記試験・実技試験			
授業内容											
1	褥瘡の後発部位と原因、尿失禁、ストーマ				9	事例（手順書作成、実施③）					
2	スタンダードプリコーション、自己導尿、実習の振り返り				10	事例（手順書作成、実施③）					
3	事例（手順書作成、実施①）				11	事例（手順書作成、実施③）、終末期介護					
4	事例（手順書作成、実施①）				12	横浜市防災センター見学					
5	音楽療法				13	横浜市防災センター見学					
6	音楽療法				14	期末試験対策					
7	事例（手順書作成、実施②）				15	期末試験対策					
8	事例（手順書作成、実施②）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅲ（2年前期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	特別養護老人ホーム等で介護福祉士・生活相談員として従事。以後、教育の現場において実務経験から得た尊厳の保持や自立支援の考え方、重要性を理解できるよう授業を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	障害に応じた生活支援技術 障害者の家族の支援技術（他職種との連携や社会制度の利用）										
到達目標	障害や疾病のある人の、身体的・心理的な生活上の支障を理解し、その障害等に合わせた個別の援助技術を身につける。 障害や疾病のある人・家族を支援する他職種や制度を学習し、介護福祉士としての役割や連携について学ぶことができる。										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座 「生活支援技術Ⅲ」						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	肢体不自由（運動機能障害－脊髄損傷）に応じた介護①					9	言語障害に応じた介護				
2	肢体不自由（運動機能障害－脊髄損傷）に応じた介護②					10	重複障害に応じた介護				
3	肢体不自由（運動機能障害－麻痺）に応じた介護③					11	心臓機能障害に応じた介護（ペースメーカー）				
4	肢体不自由（運動機能障害－脳性麻痺）に応じた介護④					12	呼吸機能障害に応じた介護（在宅酸素療法）				
5	視覚障害に応じた介護①					13	腎臓機能障害に応じた介護（人工透析）				
6	視覚障害に応じた介護②					14	直腸機能障害に応じた介護（ストーマ）				
7	視覚障害に応じた介護③					15	まとめ・補足				
8	聴覚障害に応じた介護										
特記事項	授業中の小テストを期末試験の点数に加味する。 授業の欠科・提出物・授業中の態度を減点対象とする。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	生活支援技術Ⅲ（2年後期）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	特別養護老人ホーム等で介護福祉士・生活相談員として従事。以後、教育の現場において実務経験から得た尊厳の保持や自立支援の考え方、重要性を理解できるよう授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要	障害に応じた生活支援技術 障害者のある人・その家族の支援（他職種との連携・社会制度の利用）										
到達目標	障害や疾病のある人の、身体的・心理的な生活上の支障を理解し、その障害等に合わせた個別の援助技術を身につける。 障害や疾病のある人・家族を支援する他職種や制度を学習し、介護福祉士としての役割や連携について学ぶことができる。										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座「生活支援技術Ⅲ」						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	膀胱機能障害に応じた介護（留置カテーテル）				9	高次機能障害に応じた介護①					
2	膀胱機能障害に応じた介護（ストーマ）				10	高次機能障害に応じた介護②					
3	小腸機能障害に応じた介護①				11	発達機能障害に応じた介護					
4	小腸機能障害に応じた介護②				12	難病（ALS）に応じた介護					
5	免疫機能障害に応じた介護				13	難病（筋ジストロフィー）に応じた介護					
6	肝臓機能障害に応じた介護				14	難病（パーキンソン病）に応じた介護					
7	知的障害に応じた介護				15	難病（悪性関節リウマチ）に応じた介護					
8	精神障害に応じた介護				16	後期期末試験					
特記事項	授業中の小テストを期末試験の点数に加味する。 授業の欠科・提出物・授業中の態度を減点対象にする。										

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程（2年前期）				担当教員名	手塚 ミユキ			
実務経験等	障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう										
年次	2学年	開講期	前期	種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修（班別）
授業概要	事例を用いたグループワーク 計画作成										
到達目標	対象者がよりよい生活を送るために、ニーズを適切にとらえることができ、さまざまな対象者の状況に応じた介護の過程を展開することができる。また、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、カンファレンス等で説明できる能力を身につける。										
使用教材							評価方法	演習内容、演習 取り組み姿勢			
授業内容											
1	おさらい（介護過程とは）				1	6	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				
2	おさらい（介護過程とは）				1	7	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				
3	論理的思考練習（実習Ⅱ－①課題をもとに）				1	8	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				
4	論理的思考練習（実習Ⅱ－①課題をもとに）				1	9	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				
5	アセスメント練習（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	0	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				
6	アセスメント練習（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	1	ケアカンファレンス演習事前オリエンテーション				
7	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	2	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
8	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	3	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
9	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	4	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
10	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	5	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
11	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	6	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
12	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	7	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
13	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	8	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
14	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				2	9	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
15	実習個人ケースアセスメント（実習Ⅱ－①課題をもとに）				3	0	ケアカンファレンス演習（ロールプレイ）				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護過程（2年後期）	担当教員名	手塚 ミユキ						
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。また、介護福祉士に必要とされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修（班別）
授業概要	<p>対象者がよりよい生活を送るために、ニーズを適切にとらえることができ、さまざまな対象者の状況に応じた介護の過程を展開することができる。また、多職種協働によるチームアプローチの必要性を理解し、カンファレンス等で説明できる能力を身につける。</p>										
到達目標	<p>チームアプローチの理解、カンファレンスの実践</p>										
使用教材						評価方法	<p>課題評価、レポート、 期末試験（発表）</p>				
授業内容											
1	実習事前確認（情報収集）、評価について					9	実習ケース発表準備				
2	帰校日（病気、薬、調べ）					10	実習ケース発表準備				
3	帰校日（アセスメント）					11	実習ケース発表準備				
4	帰校日（アセスメント）					12	実習ケース発表準備				
5	帰校日（アセスメント）					13	実習ケース発表準備				
6	帰校日（具体的援助内容立案）					14	実習ケース発表				
7	帰校日（具体的援助内容立案）					15	実習ケース発表				
8	実習振り返り、実習後アンケート										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護総合演習（2年）			担当教員名	手塚 ミユキ				
実務経験等	<p>障害者支援施設、特別養護老人ホームで介護福祉士・生活相談員として従事。 上記の実務経験から、対象者に合った介護の必要性を感じ教育の職に就く。介護福祉職、サービス利用者双方の安全、安心に配慮した介護技術の重要性を理解できるよう指導する。また、介護福祉士に必要なとされる介護過程の思考力、実践力の基礎を養う授業を行う。</p>										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	60時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	実習帰校日での実習課題確認・取り組み 実習、学習の総まとめ										
到達目標	実習に対する基本的姿勢をもとに、介護福祉士として最も重要な介護過程の展開を実践することでその方法と考え方を深め、総合的な対応能力を習得できるようにする。										
使用教材	中央法規出版 介護総合演習・介護実習						評価方法	筆記試験、演習課題			
授業内容											
1	実習Ⅱ－①自己評価					1 6	帰校日：アセスメント				
2	実習Ⅰ再確認					1 7	帰校日：アセスメント				
3	事前課題：特別養護老人ホームⅡ					1 8	帰校日：アセスメント				
4	事前課題：老人保健施設Ⅱ					1 9	帰校日：具体的援助内容作成				
5	実習Ⅱ説明 Ⅱ-②施設決定					2 0	帰校日：具体的援助内容作成				
6	事前課題：訪問介護、実習Ⅱ-②調書作成					2 1	実習Ⅱ-②振り返り、提出課題整理				
7	事前課題：訪問介護、訪問介護とは（DVD）					2 2	パワーポイントの説明、実習介護過程発表アウトライン作成				
8	事前課題：訪問入浴					2 3	アウトライン作成				
9	事前課題：訪問入浴、訪問入浴とは（DVD）					2 4	パワーポイント作成				
1 0	実習Ⅱ-②事前オリエンテーション					2 5	パワーポイント作成				
1 1	実習Ⅱ-②事前オリエンテーション					2 6	パワーポイント作成				
1 2	訪問介護実習直前確認					2 7	パワーポイント作成				
1 3	実習Ⅱ-②直前オリエンテーション（日誌等配布）					2 8	パワーポイント作成				
1 4	実習Ⅱ-②直前オリエンテーション（情報収集等、確認）					2 9	パワーポイント作成				
1 5	帰校日：実習Ⅱ-② 1週目振り返り					3 0	発表準備				
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	介護実習Ⅱ				担当教員名	介護 専任			
実務経験等											
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	216時間	単位数	5単位	区分	必修
授業概要		実習Ⅰ 在宅実習 実習Ⅱ 施設実習（介護老人福祉施設・介護老人保健施設・障害者支援施設）									
到達目標		介護実践のためには、基本的な生活支援技術を実践し、利用者の状況に応じた介護技術を適切に使う必要があることを学習する。また、カンファレンス、多職種の役割を学びチームの一員としての在り方を認識しつつ、介護過程を実践することで、思考プロセスを学び、展開能力を身につける。									
使用教材							評価方法		施設実習指導者評価による		
授業内容											
実習Ⅰ -③ 16時	内容 在宅介護の意義、介護の配慮・工夫を学ぶ 対象 訪問介護、・訪問入浴										
実習Ⅱ -② 200	内容 個性の理解、変則勤務、他職種との連携、介護過程の展開の総合実習 対象 特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、障害者支										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	発達と老化の理解 (2年前期)				担当教員名	野本 義則			
実務経験等	作業療法士として長年病院という医療現場に従事した経験から、コミュニケーション論について講義を行う。・作業療法士として長年、介護保険領域のリハビリテーションに従事した経験から、発達と老化の理解について講義を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	高齢者の老化による変化と代表的な疾患の理解、それに伴う心理的变化の理解										
到達目標	人間の成長と発達の基礎的な理解のために誕生から死に至るまでの心身の発達や成長、成熟、生理的变化をイメージできるようになる。あわせて、高齢者が障害を受けた後、受容していく心理も学ぶ。										
使用教材	中央法規出版 発達と老化の理解						評価方法	筆記試験			
授業内容											
1	コースオリエンテーション、発達とは					9	循環器疾患、高血圧など				
2	発達段階と発達課題					10	心疾患など				
3	老年期の発達課題の留意点					11	統合失調症など				
4	発達と個人差					12	気分障害、うつ、老年期うつ				
5	呼吸器疾患（風邪、肺炎など）					13	依存症、肝疾患				
6	慢性閉塞性肺疾患、在宅酸素療法、煙草など					14	認知症				
7	骨、関節、骨折					15	保健医療職との連携				
8	変形性膝関節症、骨粗鬆症										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	認知症の理解（2年前期）				担当教員名	松橋 あけみ			
実務経験等	デイサービスにて相談員として6年、地域包括支援センターに社会福祉士として11年勤務。社会福祉士として相談業務にあっていた経験から、高齢になっても、障害があったとしても住み慣れた地域で生活していく為に必要な支援等について理解を深める授業を行う。										
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	利用者個々の特性を踏まえた適切なケアを提供するための知識や支援方法、地域で生活する認知症のある人とその家族の支援体制のあり方、多職種連携・協働のあり方について学ぶ。										
到達目標	認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得するとともに、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。										
使用教材	中央法規出版 認知症の理解						評価方法	小テスト・レポート・筆記試験			
授業内容											
1	・認知症の理解②の概要説明☑ ・1年次のレビュー（症状、疾患、治療や予防など）					9	・認知症の人への様々なアプローチ（ユマニチュード、バリデーション）				
2	・パーソン・センタード・ケア ・「聞く」「集める」「見つける」の3つのステップ					10	・回想法、その他 ・認知症の人の終末期利用と介護 ・環境づくり				
3	・第1節のレビュー ・ビデオワーク					11	・家族への支援				
4	・認知症の人の理解と認知症の人の特性をふまえたアセスメント・ツール					12	・家族への支援 ・ビデオ				
5	・ひもときシート演習					13	・介護福祉職への支援				
6	・認知症の人とのコミュニケーション					14	・地域包括ケアシステムにおける認知症ケア				
7	・認知症の人へのケア（食事、排泄、入浴、清潔保持、休息と睡眠）					15	・多職種連携と協働				
8	・認知症の人へのケア（活動・生きがい BPSD）										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	障害の理解 (2年前期)			担当教員名	野本 義則				
実務経験等		病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務。保健医療学にて博士号を取得。作業療法士として長年病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Iについて講義を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要											
到達目標		障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。 障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。また、対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を身につける。									
使用教材		中央法規出版 介護福祉士養成講座「障害の理解」					評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	1-1障害の概念 障害の捉え方 ICIDHとICF				9	2-2肢体不自由③ 障害の原因となるおもな疾患の理解 SCI 脊髄小脳変性症 切断					
2	1-1障害の概念 ICF 情報整理演習 3.4.障害者の概数 定義				10	2-3視覚障害					
3	1-2障害者福祉の基本理念				11	2-4聴覚言語障害					
4	1-3障害者福祉に関連する制度				12	2-5重複障害					
5	1-4障害者福祉制度と介護保険制度				13	2-6内部障害① 心臓機能障害 呼吸機能障害 HIV					
6	2-1障害のある人の心理①人間の欲求 適応機制 障害受容の過程 心理的支援の方法				14	2-6内部障害② 腎・膀胱直腸・小腸・肝臓機能					
7	2-2肢体不自由① 総論1-4と8				15	2-7重症心身障害					
8	2-2肢体不自由② 障害の原因となるおもな疾患の理解 CP CVA 筋ジス										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	障害の理解（2年後期）			担当教員名	野本 義則				
実務経験等	病院にて作業療法士として11年間常勤として勤務・介護老人保健施設にて作業療法士として3年間非常勤勤務及び1年間常勤勤務。保健医療学にて博士号を取得。作業療法士として長年病院及び介護老人保健施設に従事した経験に基づき、コミュニケーション論、発達と老化の理解、障害の理解、介護の基本Iについて講義を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	2単位	区分	必修
授業概要	精神障害、発達障害、知的障害、高次脳機能障害、難病の基礎的理解 連携と協働、家族への支援										
到達目標	障害のある人の心理や身体的機能に関する基礎的知識を習得する。 障害のある人の状況・状態に合わせた介護の視点、本人のみならず家族を含めた周囲の環境に配慮した介護の視点を習得する。また、対象者・その家族の支援のため、他職種と連携できる能力を身につける。										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座 医「障害の理解」						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	3-1知的障害				9	3-5難病②					
2	3-2精神障害① 総論				10	4-1地域のサポート体制					
3	3-2精神障害② 疾患別特徴 統合失調症 気分障害 薬物依存				11	4-2チームアプローチ①					
4	3-3高次脳機能障害① 総論				12	4-2チームアプローチ②					
5	3-3高次脳機能障害② 障害の原因 特徴				13	5-1家族への支援とは					
6	3-4発達障害				14	5-1家族への支援とは					
7	3-4発達障害				15	5-2家族の介護力の評価と負担の軽減					
8	3-5難病①										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	医療的ケア				担当教員名	福地 みか			
実務経験等		看護師として病院に勤務した実務経験を活かし、医師の指示の下、安全かつ適切な医療的ケアの実施ができる為の基礎知識、技術の習得を目的とした授業を行う。									
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	50時間	単位数	3単位	区分	必修
授業概要		医療的ケアの基礎の理解 喀痰吸引・経管栄養の基礎知識理解。									
到達目標		医療的ケアが必要な人の生活・状況を理解し、医療提供の基本的な考え方、リスクマネジメントを基盤に、安全に確実な医療的ケアを実施することができる知識を身につける。また、介護福祉士の業務として喀痰吸引や経管栄養などの医療的ケアを実施する意味を学ぶ。									
使用教材		中央法規出版 介護福祉士養成講座「医療的ケア」					評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	医療的ケアとは・喀痰吸引等制度の背景					16	喀痰吸引時の急変・事故発生時の対応				
2	安全な療養生活（リスクマネジメント）					17	喀痰吸引の手順（留意事項①）				
3	安全な療養生活（ヒヤリハット・アクシデント）					18	喀痰吸引の手順（留意事項②）				
4	安全な療養生活（ヒヤリハット・アクシデント）					19	経管栄養の基礎的知識（消化器系のしくみ）				
5	感染・感染症とは					20	経管栄養の基礎的知識（消化器系の症状）				
6	感染予防とは					21	経管栄養とは（気持ち・リスク）				
7	消毒・滅菌・手洗い・うがい・マスク					22	経管栄養とは（子ども・栄養剤）				
8	健康状態の把握					23	経管栄養時の急変・事故発生時の対応				
9	健康状態の把握					24	経管栄養の手順（留意事項①）				
10	観察・バイタルサイン測定					25	経管栄養の手順（留意事項②）				
11	喀痰吸引の基礎的知識（呼吸のしくみ）					26	まとめ・補足				
12	喀痰吸引の基礎的知識（呼吸器系の症状）					27	口腔・鼻腔吸引の手順				
13	喀痰吸引とは（気持ち・リスク）					28	口腔・鼻腔吸引の演習				
14	喀痰吸引とは（方法・喀痰とは）					29	気管カニューレ内部の吸引手順				
15	喀痰吸引とは（子ども・人工呼吸器）					30	気管カニューレ内部の吸引演習				
特記事項		授業中小テスト（技術）を行い期末試験の点数に加味する。 授業の欠科・提出物・授業中の態度を原点对象とする。									

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	医療的ケア演習			担当教員名	福地 みか				
実務経験等	看護師として病院に勤務した実務経験を活かし、医師の指示の下、安全かつ適切な医療的ケアの実施ができる為の基礎知識、技術の習得を目的とした授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	演習	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修(班別)
授業概要	医療的ケア5項目の評価を行う AED使用の救急蘇生の演習										
到達目標	安全に確実な医療的ケア(5項目)の実施ができる。										
使用教材	中央法規出版 介護福祉士養成講座「医療的ケア」						評価方法		実技		
授業内容											
1	喀痰吸引(口腔内)1				9	喀痰吸引(気管カニューレ内部)3					
2	喀痰吸引(口腔内)2				10	経管栄養(胃ろう又は腸ろう)1					
3	喀痰吸引(口腔内)3				11	経管栄養(胃ろう又は腸ろう)2					
4	喀痰吸引(鼻腔内)1				12	経管栄養(経鼻)1					
5	喀痰吸引(鼻腔内)2				13	経管栄養(経鼻)2					
6	喀痰吸引(鼻腔内)3				14	救急蘇生法1					
7	喀痰吸引(気管カニューレ内部)1				15	救急蘇生法2					
8	喀痰吸引(気管カニューレ内部)2										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南総合ゼミ（点字）			担当教員名	伏見 日出夫				
実務経験等	鍼灸マッサージの会社経営とともに、あはき師として様々な老人ホームなどに訪問施術を行う。盲学校での勤務時、授業や国家試験において点字使用者に対する助言、指導を行っていた経験をもとに点字ならびに視覚障害者への理解を深めていただく授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	点字の理解と体験。										
到達目標	息長く介護職として現場で活躍するための、自己管理の一つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。また利用者には聴覚・視覚障害等を持ち、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得することを目的とする。										
使用教材	初めての点訳全国視覚障害者情報提供施設協会					評価方法			筆記試験		
授業内容											
1	点字の歴史、概要 器具の紹介、点字表記				9	点字の表記 固有名詞、数字、アルファベット					
2	点字の表記 かなづかい				10	総まとめ 「書き方の実際」を含む					
3	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
4	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
5	点字の表記 かなづかい、分かち書き、記号類										
6	点字の表記 複合語										
7	点字の表記 複合語										
8	点字の表記 固有名詞、数字、アルファベット										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南ゼミ（手話）			担当教員名	島野 紫都、小出 裕子				
実務経験等	平成16年から入門、基礎、応用の手話指導及び手話通訳者養成に携わる。 聴覚障害のため手話通訳者同伴。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	聴覚障害と手話の理解と体験										
到達目標	息長く介護職として現場で活躍するための、自己管理の一つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。また利用者には聴覚・介護福祉士が携わる人の中には聴覚・視覚障害等を持ち、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得することを目的とする。										
使用教材	各回プリント配布						評価方法	実技（自己紹介）と筆記試験			
授業内容											
1	オリエンテーション 聞こえないとは？ 手話であいさつ					9	自己紹介を手話でやってみよう				
2	指文字・名前					10	介護に関する単語、例文				
3	DVD鑑賞「災害時の障害者」										
4	趣味（好き・嫌い）										
5	誕生日・数字										
6	家族										
7	住所・道府県										
8	時制・自己紹介・クリスマス歌										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	湘南ゼミ（セルフマッサージ）			担当教員名	君嶋 真理子				
実務経験等	あん摩マッサージ指圧師、はり師、きゅう師として40年以上の臨床経験がある。豊富な知識と経験、技術を活かした授業を行う。										
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	20時間	単位数		区分	必修
授業概要	マッサージ手技の理解と体験。										
到達目標	息長く介護職として現場で活躍するための、自己管理の一つとして、自身の身体のケアを自分自身で行う方法を学ぶ。また利用者には聴覚・介護福祉士が携わる人の中には聴覚・視覚障害等を持ち、手話・点字を介してコミュニケーションをとる方も含まれる。それぞれの特性や留意点を理解し、簡単なコミュニケーションやあいさつ程度の技術を習得することを目的とする。										
使用教材	プリント配布						評価方法		筆記試験		
授業内容											
1	ガイダンス・東洋医学とは					9	下肢あんま				
2	東洋医学とは・座位あんま					10	復習・テスト対策				
3	座位あんま										
4	足つぼマッサージ										
5	足つぼマッサージ										
6	上肢あんま										
7	上肢あんま										
8	下肢あんま										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動（2年前期）	担当教員名	介護 専任						
実務経験等											
年次	2学年	開講期	前期	種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		学校行事への参加に伴う各種話し合いや、チームワークの育成 卒業時到達目標を達成できるための人間性・社会性の育成									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を学ぶ。また、就職活動や各種施設見学に出向くことで、介護福祉士としてより幅広い視野を持てるようにする									
使用教材								評価方法		出席状況 参加姿勢により評価	
授業内容											
1	クラス委員選出					9	求人票検索の方法・履歴書作成①				
2	レクリエーション大会話し合い①					10	求人票検索の方法・履歴書作成②				
3	レクリエーション大会話し合い②					11	かながわ大会参加（就職相談会）①				
4	レクリエーション大会 当日①					12	かながわ大会参加（就職相談会）②				
5	レクリエーション大会 当日②					13	かながわ大会参加（就職相談会）③				
6	レクリエーション大会 当日③					14	国家試験願書記入・写真撮影				
7	社会人マナー研修①					15	国家試験願書記入・写真撮影				
8	社会人マナー研修②										
特記事項											

学科名	介護福祉科昼間課程	科目名	特別活動（2年後期）	担当教員名	介護 専任						
実務経験等											
年次	2学年	開講期		種別	講義	時間数	30時間	単位数	1単位	区分	必修
授業概要		学校行事への参加に伴う各種話し合いや、チームワークの育成 卒業時到達目標を達成できるための人間性・社会性の育成									
到達目標		社会人教育の一環として、学校行事や外部への見学等の活動を通じ、社会性・協調性を学ぶ。また、就職活動や各種施設見学に出向くことで、介護福祉士としてより幅広い視野を持てるようにする									
使用教材								評価方法		出席状況 参加姿勢により評価	
授業内容											
1	文化祭準備・話し合い①					9	文化祭2日目③				
2	文化祭準備・話し合い②					10	国家試験模擬試験1回目①				
3	文化祭準備・話し合い③					11	国家試験模擬試験1回目②				
4	文化祭1日目①					12	国家試験模擬試験1回目③				
5	文化祭1日目②					13	国家試験模擬試験2回目				
6	文化祭1日目③					14	国家試験模擬試験2回目②				
7	文化祭2日目①					15	国家試験模擬試験2回目③				
8	文化祭2日目②										
特記事項											